



カレッジ college news だより

2006 Mar.
vol. 9



道民カレッジ受講生数
17,031人 (2月28日現在)

「道民カレッジ」と自問自答

ほっかいどう学コース 道民カレッジ修士
音更町 吉谷 健一 氏



十勝晴れの朝、元気に目が覚めた。健康第一をモットーとして、日々を過ごしていて、今のところまだ病院にお世話にはなっていません。定年後は「晴耕雨寝」の生活状態のなか、この度「道民カレッジ修士」(ほっかいどう学コース)の称号をいただき、恐縮しています。

「道民カレッジ」を何ではじめたのだろうか、受講の動機は何であったのだろうか。自分自身よくわからない…。(物忘れがおおくなったかなー。)平成13年度のOOJCオープンカレッジの受講がスタートだと思える。数ある講座の中、一つの講座を受講したのが道民カレッジ連携講座との出会いでした。OOJC(オーオージェーシー)オープンカレッジとは、私の住む街、音更町生涯学習推進本部と帯広大谷短期大学生涯学習センターの共催で行われた講座で、道民カレッジ連携講座でありました。そのころ、音更町教育委員会の高齢者大学に入学し、月1回の学習をしていました。

「あなたの学びが北海道を変える。踏み出そう!学びの一步」の格好よいキャッチフレーズと「学びたいという意思」を唯一の入学資格とする生涯学習の学園です。自分にあった講座を選び、自分を高めるとともに、地域などで生かすことができます。いろいろな場所で開催されている講座に参加できる「道民カレッジ」で学び、一単位一単位の積み重ねで、平成17年8月22日「道民カレッジ学士」、平成18年2月1日「道民カレッジ修士」の称号をいただき、「博士」の認定証を目指しているのが現状で、ボチボチ諦めず頑張っています。「継続は力なり」をモットーとして、諦めず一步一步ですが頑張っています。

学び続けることは、健康体でなければ楽しくありません。毎日毎日が明るく健康であること。体力づくりには、ジョギングやパークゴルフをやり、記憶力、精神力を落とさないためにも、町教委の老人大学院にも入り、学びながら「道民カレッジ」も学んでいきたい。欲張って平均寿命以上を目指し生きたい。生き生き長寿のコツは5快だといわれているが、1快食、2快眠、3快便、4快笑、5快楽、5快を基に気楽にしっかりした意志を持ちながら「謹厳実直」に一日一日を大切に生きたい。

住みよいまち。自然の多い十勝地域、音更町の中で、友に学びながら「道民カレッジ」との一期一会を大切にガンバります。

道民カレッジの現況

(平成18年2月28日現在)

今年度は、前期の連携講座が832講座ありました。後期ガイドブックに掲載した講座数は475講座でその後の申請を合わせると627講座となり、前期・後期を合わせ、1,459講座となっております。皆さんからの要望によって連携講座となったものもあります。

◎平成17年度後期連携講座の集計 (627講座)

ほっかいどう学コース 106講座 能力開発コース 103講座 環境生活コース 102講座
健康・スポーツコース 106講座 教養コース 210講座

◎称号取得者数 学士110名 修士49名 博士33名 学長奨励賞1名

◎管内別学生数 (17,864名)

管 内	石 狩	渡 島	檜 山	後 志	空 知	上 川	留 萌
受 講 生	6,269名	786名	1,057名	1,196名	884名	1,561名	653名
管 内	宗 谷	網 走	胆 振	日 高	十 勝	釧 路	根 室
受 講 生	490名	1,393名	398名	1,021名	502名	892名	762名

主催講座「ほっかいどう学」出前講座、初年度終了!

今年度から道民カレッジでは、「ほっかいどう学」を基軸に、主催講座として大学放送講座と出前講座を実施してまいりました。「ほっかいどう学」出前講座は、これまでの大学放送講座のスクーリングを充実させ、実施を希望する市町村の要望にもとづき、学習者の参加も回りながら、その企画・実施を市町村（教育委員会等）と道民カレッジが共同で取り組むものです。

方法としては、地域住民の学習活動のリーダー及び行政職員等の養成・能力の向上を図るため、研修プログラムを充実させ、学習方法についてもリーダーや支援者の専門性を高めるとともに、道民自身が企画・運営に参加する学習プログラムの開発を行っていくというものです。

全道6圏域12市町村で実施した「ほっかいどう学」出前講座は、様々な地域課題をテーマに参加者が熱心に議論していました。



(松前町)

市町村	テーマ（地域課題）	実施日	派遣講師	参加者
丸瀬布町	北海道遺産と歩む、これからの地域のあり方について	9月24日	東京交通博物館 学芸員 佐藤美知男	30名
留萌市	地域活性化へのアプローチ ～地域で子どもを育てため、今何を～	9月28日	登別市文化協会 会長 小林 正明	80名
松前町	松前町の文化財を活用したまちづくり	10月14日	(株)リージャスト技術顧問 北海道教育大名誉教授 奥平 忠志	19名
浦河町	食と健康 ～北海道を食べて心も体も健康に～	11月19日	北海道医療大学 助教授 堀田 清	20名
上湧別町	北海道遺産「屯田の活用」 ～屯田の知恵を現代に活かす～	11月29日	ノンフィクション作家 合田 一道	55名
由仁町	家庭教育の充実を目指して ～農村らしさを活かした「食育」～	12月11日 1月31日	北海道大学 教授 木村 純 天使大学 教授 荒川 義人	55名 21名
帯広市	地域の価値、再発見 ～地域づくりの土台として～	12月18日	札幌国際大学 専任講師 吉岡 宏高	30名
中富良野町	地域づくりとふるさと再発見！ ～田園風景を生かしたまちづくりを考える～	1月26日	北海道教育大学 教授 内田 和浩	19名
士幌町	子育て環境とまちづくり	1月28日	国立教育政策研究所 総括研究官 笹井 宏益 北海道大学 教授 木村 純 大学院生 川前あゆみ他1 地元講師 篠原 安夫	60名
七飯町	地域で子どもを育てる ～青少年の薬物乱用防止への取組～	1月29日	医療法人耕仁会札幌太田病院 理事長 太田 耕平	9名
長沼町	・食と農業・農村を考える ・長沼農業の将来的展望を考える ・スローライフを考える ～農村・農業の持つ意義と素晴らしさを考える～	2月 1日 2月 8日 2月15日	北海道大学 教授 木村 純 長沼町農協 組合長 内田 和幸 地元講師 手嶋・秋葉・押谷	60名 60名 60名
弟子屈町	川湯温泉と観光のまちづくり ～観光地としての川湯温泉の足場づくりのために～	2月21日	札幌国際大学 教授 松田 忠徳	30名

主催講座「ほっかいどう学」大学放送講座

8大学の番組が好評のうちに終了!!

北海道（あるいは道内の地域）について、7つの学習領域を基本に、現在を見つめ、過去を知り、未来のあり方を考える「ほっかいどう学」大学放送講座をHBCテレビで放送しました。

今年度は、札幌大学、札幌医科大学、東京農業大学、北海道医療大学、北海道教育大学、北海道情報大学、北海道大学、北海道東海大学の8大学が、学習領域に沿った内容を放送しました。

7つの学習領域とは、①北海道の総合施策に関わるもの②北海道の文化と歴史に関わるもの③北海道の自然・環境に関わるもの④北海道の産業に関わるもの⑤北海道の生活に関わるもの⑥北海道の芸術・文化に関わるもの⑦北海道の地域づくりに関わるものです。

平成18年度は、旭川大学、札幌大学、東京農業大学、北海学園大学、北海道医療大学、北海道教育大学、北海道情報大学、北海道大学、北海道東海大学、北海道武蔵女子短期大学（太字は新規）の10校となります。これから放送内容について検討して参りますが、決まり次第、皆様にお知らせいたします。

称号取得者等「学習成果活用セミナーⅡ」で

道民カレッジボランティアに多数の応募!

今年度2回目のセミナーは、道民カレッジの称号取得者及びモニターが集い、学習の成果を生かして道民カレッジの支援に関わる取組について実践的な研修を行い、活動への一歩を踏み出す契機とするために、2月27日（月）に開催しました。

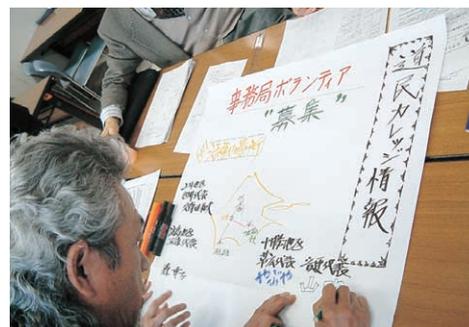
最初に、今回のセミナーの趣旨として、道民カレッジ事務局の武田から「道民カレッジへの支援と取組について～できることから～」について、今年度から道民カレッジの充実期に入ったこと、これまでカレッジ生が各地で様々な活躍をされている方々の紹介、全国的な取組などを説明しました。

講演では、北海道大学高等教育機能開発総合センター教授の木村純氏から「道民カレッジの学びをさらに豊かな学びへ—称号取得者の皆さんに寄せる期待—」と題して、道民カレッジ誕生の背景から道民カレッジがどのような学習を期待しているか、そして学んだことを活かす難しさと称号取得者等への期待について話されました。

午後は、グループワークと実習を行いました。グループワークでは、「道民カレッジ支援に向け何ができるのか～取組への一歩を踏み出すために」として、称号取得者やモニターが道民カレッジについてどんな支援ができるのか、その具体的な取組を話し合いました。KJ法を用いて、各自ができることを出し合い、項目別に整理をしてグループ毎に発表しました。できる活動として、広報や講座の企画・運営、情報交流広場での展示やコーナーの整備、カレッジ生への相談、ボランティアの組織化やモニターのネットワーク化など、様々な活動が出され、大変頼もしく思われました。

最後の実習では、道民カレッジ情報紙の作成を行いました。短い時間ではありましたが、地域毎に特色のある紙面が作られ、カレッジ生によるカレッジ生のための広報紙として、色々なアイデアが出されていました。

新年度から本格的に実施する道民カレッジボランティアには、50名近い方々の応募があり、全道各地でこれからの道民カレッジの普及に大きな期待がもてました。



「学長奨励賞」を受賞して

池本 隆一 氏

2月27日の称号取得者等「学習成果活用セミナーⅡ」における受賞式において

私は4年間に120単位を取得して4つの博士の称号をいただきました。15年の春に1年間に1科目、1博士をマスターするのを目標にしました。考えると2時間で一人の先生に教わるとすると、600人、3時間に一人の先生とすると400人の先生のお世話になった事になります。多くの人々のご支援をいただき感謝しております。

現在、私は芥川賞と直木賞の計301人の小説読破に挑戦していますが、芥川賞は136人の93%、直木賞は165人の49%、合計では69%の進捗です。昨年5月のスタートですが、あと6か月まではかかるでしょう。

今取り壊しが出ている札幌市民会館は約50年、豊平館の跡に建てたのですが、その頃テレビ塔が建てられました。原田康子さんの挽歌がヒットした頃で31年には映画も作られました。小説にはテレビ塔は出ませんが、映画にはテレビ塔の話が出ます。私のいた会社がロケ現場でした。主役の桂木に扮した森雅之は有島武郎のお子さんでした。私は、お話しした記憶があります。原田康子さんは札幌にお住まいで、昨年10月23日に講演会がありました。

さて、皆さんは、今、何に挑戦しておられますか。今後、更に挑戦をしていこうではありませんか。



新規 道民カレッジ称号取得者一覧

(平成17年11月1日～3月1日)

【学長奨励賞】 1名

池本 隆一 (札幌市)

【道民カレッジ博士】 33名中

松田 仁明 (釧路町)、 佐々尾雅志 (札幌市)、 磯部 光宏 (札幌市)、 五郎部 勇 (札幌市)、
菅原セイ子 (札幌市)、 佐藤 一雄 (江別市)、 池本 隆一 (札幌市)、 飛谷 昭一 (旭川市)、
豊田カヨ子 (札幌市)、 近藤 興麿 (札幌市)

【道民カレッジ修士】 49名中

城 雅代 (江別市)、 横井志以子 (北広島市)、 飛谷 昭一 (旭川市)、 斎藤 和男 (札幌市)、
永井 頼恵 (江別市)、 酒井 清美 (湧別町)、 吉谷 健一 (音更町)、 池本 隆一 (札幌市)、
豊田カヨ子 (札幌市)、 平石 修 (札幌市)、 渡辺 実 (旭川市)、 田中 達 (由仁町)

【道民カレッジ学士】 110名中

村上 秀雄 (標茶町)、 郷司 明夫 (江別市)、 城 雅代 (江別市)、 飛谷 昭一 (旭川市)、
木村 宏 (札幌市)、 伊藤金五郎 (札幌市)、 三浦 保彦 (札幌市)、 藪谷 義雄 (帯広市)、
佐々尾雅志 (札幌市)、 佐藤 文彦 (帯広市)、 山吹 英男 (音更町)、 矢野 忠雄 (札幌市)、
松村 繁男 (札幌市)、 池本 隆一 (札幌市)、 五郎部 勇 (札幌市)、 田中 達 (由仁町)

カレッジだより Vol.9

平成18年3月発行

編集・発行 道民カレッジ事務局

財団法人 北海道生涯学習協会

〒060-0002

札幌市中央区北2条西7丁目かでる2・7ビル9階

TEL(011)231-4111(内線36-343) FAX(011)281-6664

URL <http://www.hsgk.jp/college/> Eメール college@hsgk.jp

